

とやま型学校評価システム推進事業中間評価（2学期末）

平成29年度 さみさと小学校アクションプラン - 1 -

重点項目	学習指導
重点課題	毎日、家庭学習に取り組む。
現 状	<p>毎日、継続して学習に取り組むことの大切さを意識付けるため、「家庭学習の手引き」を配布したり、「ノーゲーム・ノーテレビデー」や「自主学習」の取組を工夫したりしたことにより、進んで家庭学習に取り組む子供が増えてきている。</p> <p>さらに、望ましい学習習慣や生活習慣の定着に向けて自分の家庭学習の状況を振り返り、目標を決めて取り組むことができるようにしたい。</p>
達成目標	児童及び保護者の評価…A、B評価の合計を80%以上とする。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○「わかった、できた、おもしろいが増えた」と感じられる家庭学習の手引き、自主学習のメニュー・教材を各学年で配布する。 ○「進んで学ぶさみっ子家庭学習カード」に目当てを記入するときに、子供自身が自分の生活実態を振り返り、課題をもって取り組むことができるようにする。また、目当ては「家族と一緒に決めよう」と呼びかけることで家庭での意識を高めるよう働きかける。 ○見本となる家庭学習や自主学習の取組を紹介したり、ノートを掲示したりする。 ○学習用具の準備や整頓、使い方等学習環境を整えたり、よりよい時間の使い方を意識して生活したりするよう子供と家庭に呼びかける。
2学期の取組	<ul style="list-style-type: none"> ○「進んで学ぶさみっ子家庭学習カード」を中学校の定期考査に合わせて町全体での取組として実施したことで保護者の理解が深まった。保護者の感想欄には子供の成長を認め励ます記述が増えている。また、生活の実態がある程度把握できて、子供自身のメディアとの接し方や家庭学習への意識を高める手立ての一つになっている。
2学期の評価	<p>回数を重ねカードの付け方が身に付いてきた。家族と相談して決める目当ては、次第に達成の基準が厳しくなってきたことで◎○の数が減る傾向も低学年で見られた。自分の生活を振り返って、よりよい生活のための目当てを考えることができる子供が増えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自主学習では、それぞれの学年で実態に合わせてノートの掲示や手作りノートカバーの作成など工夫して実施されている。 ○日課運行では、ノーチャイムを実施したことで時計を見て考えて行動しようとする子供が増えてきた。周りに声をかける子供も見られ、学校生活でもよりよい時間の使い方を意識できるようになっている。
3学期へ向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○「進んで学ぶさみっ子家庭学習カード」の目当ては、1・2学期の取組や普段の生活を振り返り、一人一人が課題をもって決めることができるよう学級で話し合う時間を設定する。 ○子供の感想や保護者の励ましを学年だよりや学校だよりに掲載し家庭の意識が高まるよう働きかける。

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状維持 D: 現状より悪化)